

令和5年度企画展・「子ども学芸員」体験事業展示

九州のおいたの 古墳文化

展示解説資料



国指定史跡 亀塚古墳 (大分市)



大分県立 埋蔵文化財センター

TEL 097-552-0077 FAX 097-552-0700
〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61 <https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/>

古墳時代とは

古墳時代は日本列島の各地で有力者たちが自らの墓の造営に多大な労力を投じた時代である。地上に土を盛って造られた古墳にはさまざまな形があるが、中でも前方後円墳はその特異な形状と他の墳墓を圧倒する規模から、古墳時代は「前方後円墳の時代」とも呼ばれている。

古墳は単に「埋葬する場所」「葬送儀礼の場所」だけではなく、古墳の形状・規模が社会的秩序を形成していた。大規模な前方後円墳が集中して築造された畿内は、政治の中心地であった。各地の有力者たちは、こうした畿内を中心とする政権（ヤマト政権）と関係を結びつつ、眺望のよい丘陵上・海や川沿い・交通の要衝などに古墳を築造することで権力を示した。

古墳からはさまざまな遺物が出土する。被葬者とともに埋葬された副葬品の変化や消長・組合せなどから、古墳時代は大きく前期（3世紀中頃～4世紀末頃）・中期（4世紀末頃～5世紀末頃まで）・後期（5世紀末頃～6世紀末頃まで）に区分される。前方後円墳の造営が停止されて以降も、方形・円形・八角形の古墳が造営されるが、こうした古墳が造営された8世紀末頃までを「終末期」という。副葬品は、時期だけではなく当時の有力者たちの性格やヤマト政権との関連性、地域間の交流など、古墳時代の社会をより豊かに読み解く手がかりを与えてくれる。

第1章 九州の古墳文化

古墳時代、九州の各地でも前方後円墳が築造されており、前方後円墳を頂点とした中央の支配体制に組み込まれていたことがわかる。しかし中央からの古墳文化をそのまま享受するのではなく、古墳の埋葬施設や出土品のなかに地域色が認められる。

古墳時代を代表する出土品に「埴輪」がある。特に人物や動物を表現した埴輪は素朴な造形ではあるが、当時の人々の装いや習俗・儀礼行為などを今の私たちへ視覚的に伝えてくれる。また埴輪と同じ造形物として、九州では「石製表飾品（石人）」が製作されるなど、九州の独自性が認められる。

馬形埴輪 田川市指定有形文化財
猫迫1号墳（福岡県田川市）
古墳時代中期

猫迫1号墳は径27mの円墳である。古墳の周溝から馬形埴輪と甲冑形埴輪がそろって出土した。

馬形埴輪は当時の馬の特徴をよく表現しており、馬具は別に製作したものを貼り付けている。馬具がはがれた部分は、色調が異なっている。馬具は鞍の部分で、輪鏝と前輪の立ち上がりが残る。馬の導入が本格化していく中期中頃のもので、馬形埴輪のなかでも古い段階の資料である。



(写真提供 田川市教育委員会)



馬具（鞍と鏝）



[参考資料]
甲冑形埴輪

猫迫1号墳から馬形埴輪とともに出土した甲冑形埴輪は、眉庇付冑・肩甲・短甲・草摺を装備する。顔の表現もあり、甲冑形埴輪と人物埴輪の過渡的な位置づけがなされている（本展での展示はない）。

たてもちびと
盾持人埴輪

塚堂古墳（福岡県うきは市）古墳時代中期

塚堂古墳は、全長91mの前方後円墳である。二重の盾形周溝がめぐっており、墳丘裾部と内堤上に埴輪が樹立されていた。

盾持人埴輪は円筒部に盾と人物の頭部が付いた埴輪で、壁邪（悪いものの侵入を防ぐ）の役割をもって製作されたとみられる。

頭部には、両側面に立飾りがつく冠のようなものをかぶっていたとみられる。表面には竹管・半裁竹管文を施している。顔の部分は残りが良くないが、目じりとあごの部分に鯨面（いれずみ）を表現したとみられる線が赤色顔料で描かれている。



塚堂古墳出土の頭部資料



顔の部分の拡大写真

人物埴輪（武人・巫女）・動物埴輪（鶏・馬・猪）
岡寺古墳（佐賀県鳥栖市）古墳時代後期

岡寺古墳は、全長65mの前方後円墳である。古墳は原形をとどめていないが、周溝から大量の埴輪が出土した。

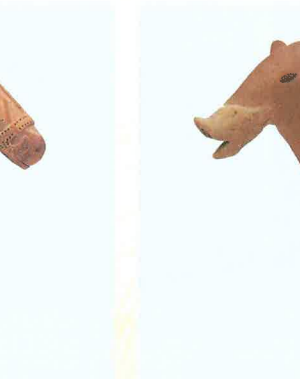
埴輪は円筒埴輪のほかに、人物（武人・巫女）、動物（鶏・馬・猪）などが出土している。

人物埴輪には竹管や半裁竹管文が施されるが、こうした装飾技法は周辺地域でも確認されている。

これらの埴輪は復元部分も多いが、当時の姿をイメージできる貴重な資料群といえる。



三角錐の突起がつく人物の足が出土している。何を表現しているのか不明だが、神奈川県飯山登山1号墳などでも共通した特徴の埴輪が出土しており、力士の埴輪とも指摘されている。



（写真提供 鳥栖市教育委員会）



(写真提供 八女市教育委員会)

人物埴輪

立山山13号墳（福岡県八女市）古墳時代後期

立山山13号墳は、径24mの円墳である。人物埴輪は墳丘をめぐる周溝内から出土した。両腕を前に壺を捧げ持つ姿に復元されている。

髪は前後で結って頭頂部で束ね（島田髷）、二つに折った幅広の布の一端をとめた構造の袈裟状衣をまっており、当時の女性の特徴を知ることができる。



正面



背中の子ども



横

八女市指定有形文化財

子負いの女性石人（牛嶋茂氏撮影・写真提供 八女市教育委員会）

童男山古墳群（福岡県八女市）古墳時代後期

童男山古墳群は、八女丘陵上に展開する八女古墳群の東端に位置する。採集された石製表飾品（石人）は古墳群中のどの古墳に立てられていたかは判然としない。

著しく破損しているが、後頭部の髷の表現と右胸のふくらみから女性とわかる。背中に背負われた子どもは、顔の半分と片腕しか残存していないが、顔を右に向け、右腕で女性の背中をつかんでいる。

石製表飾品（石人）

「石製表飾品（石人）」は、阿蘇山の噴火によって形成された阿蘇溶結凝灰岩が分布する九州の風土が生み出した、古墳文化のひとつとも

いえる。石製表飾品で最も有名な古墳は筑紫君磐井の墓と推測される八女市岩戸山古墳だが、大分の地にも石製表飾品が存在する。

臼杵市稲田の臼塚古墳（前方後円墳、87m）には、短甲形埴輪を模した2体の石製表飾品がある。異なる作風が何に起因するのか議論されている。臼杵市諏訪の下山古墳（前方後円墳、68m）にも上半部の欠損した短甲を模した石製表飾品が立てられている。これらは九州の石製表飾品のなかでも古い段階に位置付けられるものである。

日田市銭淵町に2体の石製表飾品がある。扁平のものは鞆^{ゆき}を背負う人物で、岩戸山古墳に立てられていたものをこの地に移したという。もう一体については後世の製作とされるが、由来は定かではない。



臼塚古墳の短甲形石製表飾品



日田市銭淵町の石製表飾品



顔



鞆に入った矢の鏃部分

第2章 おおいたの古墳文化

大分県内で古墳時代につくられた古墳・横穴は、過去に消滅したものもあり正確な数は定かではないが、約900基ある。横穴墓を除く古墳に限っても650基以上※が確認されている。古墳の分布がおおむね県内全域に及んでいる状況をふまえると、数の上では私たちの身近な存在ともいえる。

そのうち古墳時代の墓制の頂点に位置づけられる前方後円墳は47基確認されており、古墳の中では1割にも満たず、その卓越した規模と数の少なさは、限られた有力者の墓であることを示している。

前方後円墳の分布と築造年代をみると、大分県内はおおきく以下の3地域に分けられる。

- ・第1地域（県北部）：前期から後期まで継続的に前方後円墳が築造される
- ・第2地域（東国東～中・南部）：前期後半から中期まで前方後円墳が築造される
- ・第3地域（県西部）：後期から前方後円墳が築造される

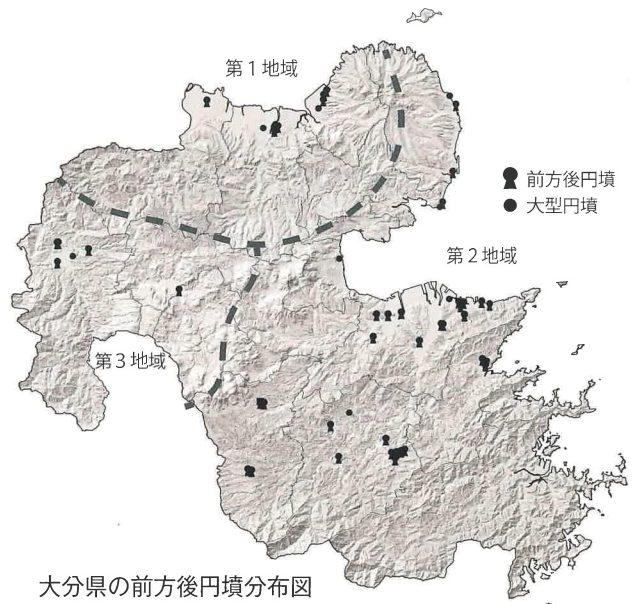
こうした地域によって異なる前方後円墳の消長が、どのような政治的背景のもとであらわれた現象なのかが、古墳研究の大きな課題といえる。

前方後円墳の築造停止後も、横穴墓とともに円墳や方墳が築造されるが、律令国家体制へと移行していくなかで、やがて古墳は姿を消していく。

※大分県教育委員会2018『大分県遺跡地図』を参照



大分県の古墳分布図



大分県の前方後円墳分布図

国土地理院「陰影起伏図」使用

	第1地域			第2地域											第3地域					
	中津	宇佐	西国東	北部	別府	大分	大在	丹生	松岡	神崎	臼杵	佐伯	三重	大野	穂方	直入	竹田	玖珠	日田	
前期		赤塚		下原																
中期	担助野地1号	大平	入津原丸山	御旗山		亀甲	上ノ坊	野間3号		馬場	山下山			大久保1号	坊ノ原	七ツ森C号				
後期		鶴見	野内	重光		御旗	亀塚	野間1号		白塚	山下			小坂大塚	重政道ノ上?	七ツ森B号				
終末期			志手金比羅山			大塚	大在	小取山6号		白塚	山下					七ツ森A号				

大分県の主要古墳

長直信2022「豊後における中期末から後期の集落と墳墓」『集落と古墳の動態Ⅲ』九州前方後円墳研究会をもとに作成

埴輪

埴輪は古墳に並べられた焼き物である。埴輪と聞いてイメージするのは人や馬の形をしたものであるが、多数を占めるのは円筒埴輪である。円筒埴輪は岡山県で出土する特殊器台を祖型とし、壺を乗せる台を巨大化させたものであった。埴輪は時代とともに器種を増やしつつ製作され、古墳の終焉とともに消えていく。埴輪は古墳の築造時期を考える上で重要な資料であるとともに製作技法を検討することで、埴輪を製作した工人たちの移動や交流を読み解くことができる。

大分県内では約60カ所（うち古墳は49カ所）の、主に前方後円墳や大型古墳から多く出土している。



円筒埴輪

亀山古墳（中津市）古墳時代中期

今では消滅してしまった古墳の存在を、私たちに伝えてくれる資料である。



馬形埴輪（左）・ 円筒埴輪（右）

猫石丸山古墳（豊後高田市）古墳時代後期

円筒埴輪は基底部が長い「嘉穂型」埴輪で、ヘラ記号が共通することから筑豊地域との工人の交流が指摘されている。馬形埴輪は鞍部で、後輪が残る。

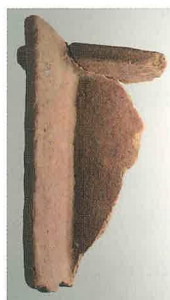
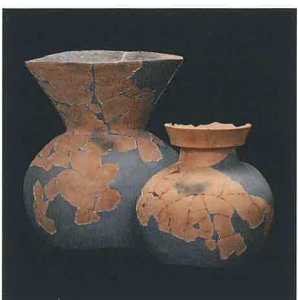
※「豊の国考古館」にて展示中



円筒埴輪

真玉大塚古墳（豊後高田市）古墳時代中期

円筒埴輪の底部には「淡輪技法」と呼ばれる輪台を用いて製作された痕跡（段）が残る。



壺形埴輪（左）・ 鱗付半裁楕円筒埴輪（右）

小熊山古墳（杵築市）古墳時代前期

九州のなかでもいち早く畿内から円筒埴輪祭式を導入した。鱗付半裁楕円筒埴輪という類例の少ない埴輪が出土している。

（写真提供 杵築市教育委員会）



もくひ 木樋形埴輪

御塔山古墳（杵築市）古墳時代中期

家・囲・木樋がセットで水に関わる祭祀を行った導水施設を表現している。九州でも出土例は少ない。

（写真提供 杵築市教育委員会）



朝顔形埴輪・家形埴輪・ 盾形埴輪・円筒埴輪（船・ スイジガイを描いた埴輪）

御陵古墳（大分市）古墳時代中期

家・盾形埴輪や、船・スイジガイを描いたとみられる埴輪片が出土している。



円筒埴輪（スイジガイ・船・ 波状文を描いた埴輪）・ 船形埴輪

亀塚古墳（大分市）古墳時代中期

波状文は口縁部に櫛描波状文を施す在地の安国寺式土器壺の施文技法を取り入れたもので、埴輪製作に在地の人々の関与が推測できる。船形埴輪や船・スイジガイを描いた埴輪片は、海と密接な関係をもつ「海部」の有力者を象徴する埴輪といえる。



轆形埴輪（上）・船形埴輪（下） 大在古墳（大分市）古墳時代中期

畿内から派遣された工人により製作された埴輪。家・盾・蓋・船のほか轆形埴輪が出土している。



蓋形埴輪
 辻1号墳（大分市）古墳時代中期
 蓋形埴輪は有力者にさしかける日傘状の笠を埴輪で表わしたもの。展示品は笠部のみだが、本来は受部に立ち飾りがつく。



短甲形埴輪
 白塚古墳（臼杵市）古墳時代中期
 短甲形埴輪の草摺部分。草摺は太腿部を護るスカート状の防具。革帯に刺繍をした実物を模倣している。



円筒埴輪
 下山古墳（臼杵市）古墳時代中期
 円筒埴輪の底部は、在地の壺形埴輪に近い形状。在地の工人によって製作されたと考えられる。



壺形埴輪
 重政古墳（豊後大野市）古墳時代中期
 底部は焼成前穿孔を施す。口縁部には三角形のスカシを入れる。



壺形埴輪
 秋葉鬼塚古墳（豊後大野市）古墳時代中期
 製作当初から底部を開放した状態で製作した壺形埴輪。

(写真提供 豊後大野市教育委員会)

(写真提供 豊後大野市教育委員会)

おおいたの人物埴輪

大分県での人物埴輪の出土例はわずか3例と非常に少ない。国東市築山古墳では人物の頭部・腕・足の部分が採集されている。大分市牧では人物埴輪の頭部が採集されている。採土された土砂の運搬先で発見されたもので、牧周辺に古墳が存在した可能性が考えられる。頭頂部が剥落しているが、髷がついていたと推測できることから女性とみられる。玖珠町亀都起古墳からは人物埴輪の両腕が出土している。腕はゆるやかにカーブを描き、先端に剥落した痕跡があることから、壺などを捧げ持つ埴輪であった可能性がある。



人物埴輪
 築山古墳（国東市）古墳時代後期



人物埴輪
 伝 牧出土（大分市）古墳時代後期



人物埴輪
 亀都起古墳（玖珠町）古墳時代後期

古墳から出土する土器



須恵器大型平底壺
 朝日天神山2号墳（日田市）古墳時代後期
 墳丘に大量に並べられた大型平底壺。底部に穿孔は行わない。須恵器製作工人により製作されたと思われる。



土師器出土状況



白破線は推定墳丘ライン
 (写真提供 竹田市教育委員会)

土師器
 弘原千人塚1号墳（竹田市）古墳時代前期

県内で唯一の前方後方墳。周溝からは祭祀に用いた後に意図的に欠損させた土師器が出土している。



整備された古宮古墳



横口式石槨の内部

須恵器高坏・坏蓋

古宮古墳（大分市）古墳時代終末期

九州で唯一の畿内型横口式石槨を有する古墳。出土品が須恵器高坏と坏蓋の小破片と非常に少ないが、須恵器の年代観から672年の壬申の乱において大海人皇子（天武天皇）側で功績をあげた大分君恵尺の墓と考えられている。



石柱

伝 朝日天神山1号墳（日田市）古墳時代後期

古墳周辺から発見されたもので、朝日天神山1号墳の石室に安置されていたとみられる。中央には被葬者の頭部を固定したとみられる台形の掘り込みがある。表面には赤色顔料が確認できる。



箱式石棺材

小野古墳（大分市）古墳時代前期

石棺の部材には、各地域で産出する石材が使用された。結晶片岩は白杵-八代構造線沿いに分布し、加工しやすく板状に剥離する特徴から、海部地域を中心に有力者の石棺（箱式石棺）に用いられた。

小野古墳の石棺材には組み合わせやすくするための浅い掘り込みが確認できる。

装飾古墳

九州では石室内に彩色や彫刻によって文様を描く装飾古墳が流行する。大分県内では筑後川上流域にあたる日田・玖珠地域が特に多く、別府湾沿岸と周防灘沿岸部にも点在して分布する。

近年、別府市教育委員会と別府大学文化財研究所により鬼ノ岩屋古墳群の横穴式石室内のクリーニングと赤外線写真撮影が行われ、これまで不鮮明であった装飾が観察できるようになった。

1号墳の前室腰石と玄門袖石には連続山形文・船・鞞・弓・同心円などが、2号墳の玄室腰石と屍床石には双脚輪状文・翳・盾・船・鞞・馬・人物などが描かれていることが確認された。

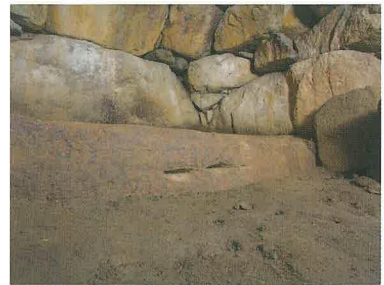


鬼ノ岩屋1号墳 玄門・前室の装飾

(写真提供 別府市教育委員会)



鬼ノ岩屋2号墳 玄室右側壁腰石部の装飾（上）と赤外線写真（下）



鬼ノ岩屋2号墳 玄室屍床部前面の装飾（上）と赤外線写真（下）

武器

古墳時代の代表的な武器として、刀・剣・鉾・鏃などがあげられる。その多くは鉄でできており、ほとんどが錆びた状態で出土するため、当時の姿を想像することは難しい。

古墳時代中期には、軍事や戦闘の性格が強い武器・武具が副葬品に多くみられるようになる。同時に武器が大量に副葬されるようになるが、それには鉄資源の安定的な確保が必須であった。こうした副葬品の性格の変化は、当時の鉄の供給先であった朝鮮半島の国々との関係と、国内での軍勢力を背景とした権威の示し方への変化を反映したものとみられる。



矢柄の先端(口巻)に巻かれた樹皮

鉄鏃

草場第二遺跡13号墳192号石棺(日田市)古墳時代中期

弓矢は主に竹や木などの有機質で作られているため、出土するのは矢の鏃(矢尻)部分が多い。古墳時代を通じて副葬されるが、時代を経るにつれ矢の威力を増すため細長く鋭い形状へと変化する。また武器としてだけではなく、狩猟や儀礼などにも用いられた。鉄鏃が副葬されるのは男性被葬者に多い傾向があると指摘されている。



みわだま
三輪玉

朝日天神山1号墳(日田市)古墳時代後期

大刀柄につけた手の甲を保護するための革ベルトに装着した、水晶製の飾り玉。



しがみかんとう
獅噛環頭

シラハゲ古墳(杵築市)古墳時代後期

噛みつく獅子の顔をする大刀の柄頭。全国で出土数が30例程度と希少な資料。



下山古墳複製刀
下山古墳(白杵市)

鉄刀の複製品。古墳時代当時の姿をイメージすることができる。



ろっかく そうぐ
鉄剣・鹿角製装具
岩塚古墳(玖珠町)古墳時代中期

鹿角製の把縁基部には直弧文が彫られている。木質が付着するため、鞘に収められていたことがわかる。



そかんとう
素環頭大刀

尾漕2号墳(日田市)古墳時代中期
柄頭に円形の環が付く。現状では半分しか残存していない。



だこう
蛇行剣
日田市指定有形文化財

伝 姫塚古墳(日田市)古墳時代中期
刃部に屈曲がみられる剣。実用的な武器ではなく祭祀に用いられたと考えられる。



鉄鉾

重光古墳(杵築市)古墳時代中期
空洞の受け口(袋部)に長柄をさし込み使用する武器。

武 具

防具である短甲は、ヤマト政権のもとで製作され、各地の有力者へ配布されたため、威信財としての役割ももっていた。

大分県での短甲の出土数は少なく、確認されているのは葛原古墳（宇佐市）・入津原丸山古墳（豊後高田市）・岬古墳（豊後高田市）・枇杷ノ木石棺（別府市）・御陵古墳（大分市）・亀塚古墳（大分市）・神下山古墳（臼杵市）・宝剣山古墳（佐伯市）・扇森山横穴墓（竹田市）の9例のみである。大臣塚古墳（大分市）でも出土が伝わるが不明である。出土分布からは、海岸部沿いの有力者に集中的に配布されたことがわかる。

短甲（長方板革綴短甲）かわとし（大分県指定有形文化財）
岬古墳（豊後高田市）古墳時代中期
複数の鉄板を革紐で綴じ合わせ、人の体のラインに沿うように仕上げた防具。

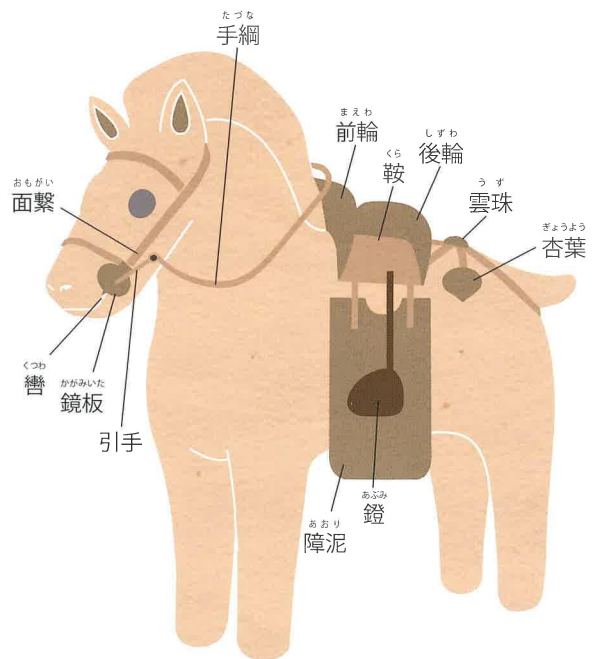


馬 具

弥生時代の日本を記した『魏志倭人伝』には馬はいないと記述されていたが、古墳時代中期ごろには日本列島に馬が登場するようになる。

乗馬の風習を示す馬具は最初は畿内を中心に出土するが、大分県内では古墳時代後期から本格的に導入され、後期後半以降出土数が増加する。

馬具は轡くつわ・鏡板かがみいた・鞍くら・雲珠うず・辻金具つじかなぐ・杏葉ぎょうよう・鐙あぶみから構成される。こうした馬具がセットでそろい、金銀で飾られたものは装飾馬具と呼ばれ、所有者の階層を示した。一方、鉄や木などの装飾性の少ないものは実用品とみられる。



鏡板複製品（左）・杏葉（右）
次郎塚古墳（別府市）古墳時代後期

鏡板は銜が外れるのを防ぐための金具。透し彫りや文様を施す複数の金属板を銕で結合したもので、装飾性が高い。

杏葉は、吊り下げる装飾品。破片は小さいが、心葉形（ハート形）杏葉と考えられる。



はたく馬鐙

おごもり遺跡Ⅰ区方形周溝墓（玖珠町）古墳時代中期

表面には方形区画に対角線を配した文様がある。両面には布痕が付着することから、袋状のものに入れて副葬したとみられる。大分で最も古い段階の馬具。

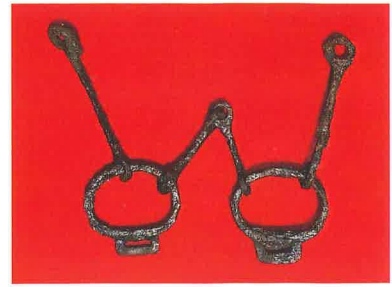


つぼあふみ
壺鏡

鷹塚古墳（別府市）古墳時代後期

木製の壺鏡に付けられた金具の一部。

鷹塚古墳から別府湾を望む
(写真提供 別府大学附属博物館)



轡

(大分県指定有形文化財)

ガランドヤ1号墳（日田市）古墳時代後期

馬の口にはめる銜と鏡板からなる馬具。



貝製辻金具（左）

鏡板（中央）・杏葉（右）

伝 朝日天神山1号墳（日田市）古墳時代後期

昭和3年、後円部に天満社が造られた際に出土した馬具。辻金具は中心にイモガイの螺塔部をはめ込む。鏡板は鉄地銀張りの舶載品で、中央に銜の一部が残存する。杏葉は棘葉形で、鉄地金張りの舶載品。

農工具とその他の鉄器

鎌・鋤鍬先・斧・刀子などを総称して農工具と呼ぶ。その用途は開墾や土木など多岐にわたる。古墳時代中期に朝鮮半島からU字形鋤鍬先などの新しい農工具が伝わると、掘削能力の向上により水田開発や古墳の築造にも大きな影響をあたえた。



てっぺい
鉄錠（左）・複製鉄錠（右）

下山古墳（臼杵市）古墳時代中期

鉄器生産の材料として朝鮮半島から輸入された、鉄の延べ板。表面に縄痕が残っており、縄によって束ねられていたことがわかる。



刀子（上）・鎌（中）・鋤先（下）

勘助野地1号墳（中津市）古墳時代中期

刀子は携帯用の小型ナイフ。

鎌と鋤先は端部を折り返して木柄に取り付ける。



鎌（上）・鋤鍬先（下）

(大分県指定有形文化財)

岬古墳（豊後高田市）古墳時代中期

鎌は刃部先端が屈曲する曲刃鎌。木柄を取り付けるための折り返しがある。

鋤鍬先はU字形の刃先で、内側には柄を着けるための溝を作り出す。



不明鉄器

志手金比羅山古墳（豊後高田市）古墳時代後期

鎌のように先端が屈曲するが、茎部を有する特徴は鎌とは異なる。刃を作り出していないため、儀器とも考えられる。

銅鏡

銅鏡は姿見の道具だけではなく、権威の象徴としても用いられた。鏡背にあるひもを通す紐ちゅうのまわりには、さまざまな文様が描かれている。古墳時代の代表的な銅鏡として三角縁神獣鏡があげられる。縁の断面が三角形をした大型鏡は、畿内を中心に広く分布するが、同じ鑄型でつくられた同範鏡の研究から古墳の年代や地域間の流通・交流関係など多岐にわたる研究が進められている。銅鏡は三角縁神獣鏡以後も小型仿製鏡が副葬されるが、威信財の中心は銅鏡から武器・武具へと転換していく。



三角縁神獣鏡片

大平3号石棺（宇佐市）
古墳時代前期

鏡の破片を副葬したとみられる。縁の断面が三角形を呈する。



方格丁字鏡

重光古墳（杵築市）古墳時代中期
古代中国の宇宙観「天円地方」に基づくとみられる模様と、方位を示す干支が文字で記されている。



位至三公鏡

白杵市指定有形文化財
白塚古墳（白杵市）古墳時代中期
中央の「位至三公」とは、出世できるという吉祥句。



獸帯鏡

白杵市指定有形文化財
白塚古墳（白杵市）古墳時代中期
4つの乳の間に四体の獣を配する。



振文鏡

四日市遺跡6号周溝墓（玖珠町）
古墳時代前期

表面に赤色顔料が付着する。



珠文鏡

志津里遺跡B地区第2次調査区1号石棺（玖珠町）古墳時代前期

内外面に布痕が付着しており、袋に入れて副葬された可能性がある。



珠文鏡

陣ヶ台遺跡（玖珠町）
古墳時代前期

採集された銅鏡。調査区内で検出された周溝墓群に帰属するとみられる。



旋回式獸像鏡

伝 朝日天神山1号墳（日田市）
古墳時代後期

同一方向を向いてめぐる5体以上のデフォルメされた獣が配置される仿製鏡。

装身具

装身具とは体を飾る装飾品である。古墳の被葬者は、装飾性の高い装身具を身につけ埋葬された。鮮やかな色彩の首飾りやイヤリングといった装身具は、男女を問わず装着していたことが人物埴輪からうかがえる。こうした権威を示す装身具は、古墳時代以降その意味を失っていく。



紫水晶製勾玉

川部遺跡（宇佐市）古墳時代中期

紫水晶製勾玉は国内での出土点数が10点程しか確認されていない珍しい勾玉。原石の産地や製作地は不明。



斑点文トンボ玉・金環・銀環・メノウ製勾玉・碧玉製勾玉

志手金比羅山古墳（豊後高田市）
古墳時代後期

斑点文トンボ玉は、ガラス玉の表面に異なる色調のガラス片を斑点状に象嵌したもの。1基の古墳から出土した数は日本最多。



玉類

シラハゲ古墳（杵築市）
古墳時代後期

シラハゲ古墳からは水晶製切子玉・勾玉・管玉・ガラス小玉が出土している。



玉類

御陵古墳（大分市）古墳時代中期

ヒスイ製勾玉・碧玉製管玉1点・ガラス玉1点は1号石棺、ヒスイ製囊玉1点・碧玉製管玉2点は2号石棺出土。



勾玉

亀塚古墳（大分市）古墳時代中期

石棺内から大量に出土した勾玉の一部を展示。



勾玉・管玉

白塚古墳（臼杵市）古墳時代中期

勾玉は琥珀製で、頭部から頸部に刻みが入る丁字頭勾玉。管玉は碧玉製。



勾玉・管玉

千人塚古墳（玖珠町）古墳時代中期

メノウ製勾玉と碧玉製管玉。



竪櫛

千人塚古墳（玖珠町）古墳時代中期

束ねた竹ひごをU字形に曲げ、根元を固定した櫛。竹ひごの部分は朽ち、表面に塗られた漆膜のみが残る。



竪櫛

勘助野地1号墳（中津市）古墳時代中期

幅が6.5cmと1.5cmの大小の竪櫛。大型櫛の表面には小型櫛の痕跡が残る。

貝製装身具

琉球諸島などでとれる南海産の大型巻貝は貝輪などの装身具にも利用された。九州の中でも大分県の貝製品出土数は多く、南海との交流ルートが九州東岸にあったことが推測されている。



イモガイ製貝輪

世利門古墳（大分市）古墳時代中期

イモガイの四隅に孔をあけ連結した貝輪。



ゴホウラ製貝輪

世利門古墳（大分市）古墳時代中期

遺骸の腕に装着された状態で出土した。縁に列点文を施す。



イモガイ製貝輪（左）・ゴホウラ製貝輪（右）

白塚古墳（臼杵市）古墳時代中期

イモガイは横方向に、ゴホウラは縦方向に利用した貝輪。

生産道具



線刻入り紡錘車

七双子2号墳（杵築市）古墳時代後期

紡錘車は繊維に撚りをかける際に用いる。全面に線刻を施すものは織内を中心に分布するが、出土数は少ない。

第3章



豊後高田市立
河内小学校
6年生

河内にしかない自慢の西田古墳

私たちが暮らしている校区には、小学校に隣接する河内中学校の敷地内に「西田古墳」があります。西田古墳は古墳時代終末期、今から約1400年前の古墳です。調査前は大きな石が積まれた積石塚の様相でしたが、調査が進むにつれ、横穴式石室も天井部がすでにない、下の部分の石組み



のみ存在する方墳であることが分かりました。私たちは、この西田古墳をはじめ、市内に残る穴瀬横穴群、雷鬼の岩屋古墳などを観察したり、西田古墳についての調べ学習を行ったりしました。また、西田古墳の横穴式石室を2グループに分かれて実測し、図面に書き起こしたものを観察内容とともにパネル展示をするための活動を行ってきました。今回はそうした学習や体験をもとに展示発表します。



竹田市立
菅生小学校
5・6年生

菅生の人々が大切にしている 七ツ森古墳群

私たちが通う菅生小学校の校区には、「七ツ森古墳群」があります。毎年遠足で訪れるほど、私たちにとっては身近な場所ですが、知らないこともたくさんあることに気づき、調べてみることにしました。



現地調査をしたり、古墳とは何か、どのようなものが埋められていたのかについての調べ学習をしたりしてわかってきたこと、また、「七ツ森古墳群」が当たり前に残っているものではなく、守り続けてきた地域の人々がいたことや自分たちもその一員であったことについて、まとめたものを展示発表します。



臼杵市立
下南小学校
6年生

『ハニワ』を通して、 古墳時代の人々の想いを探る

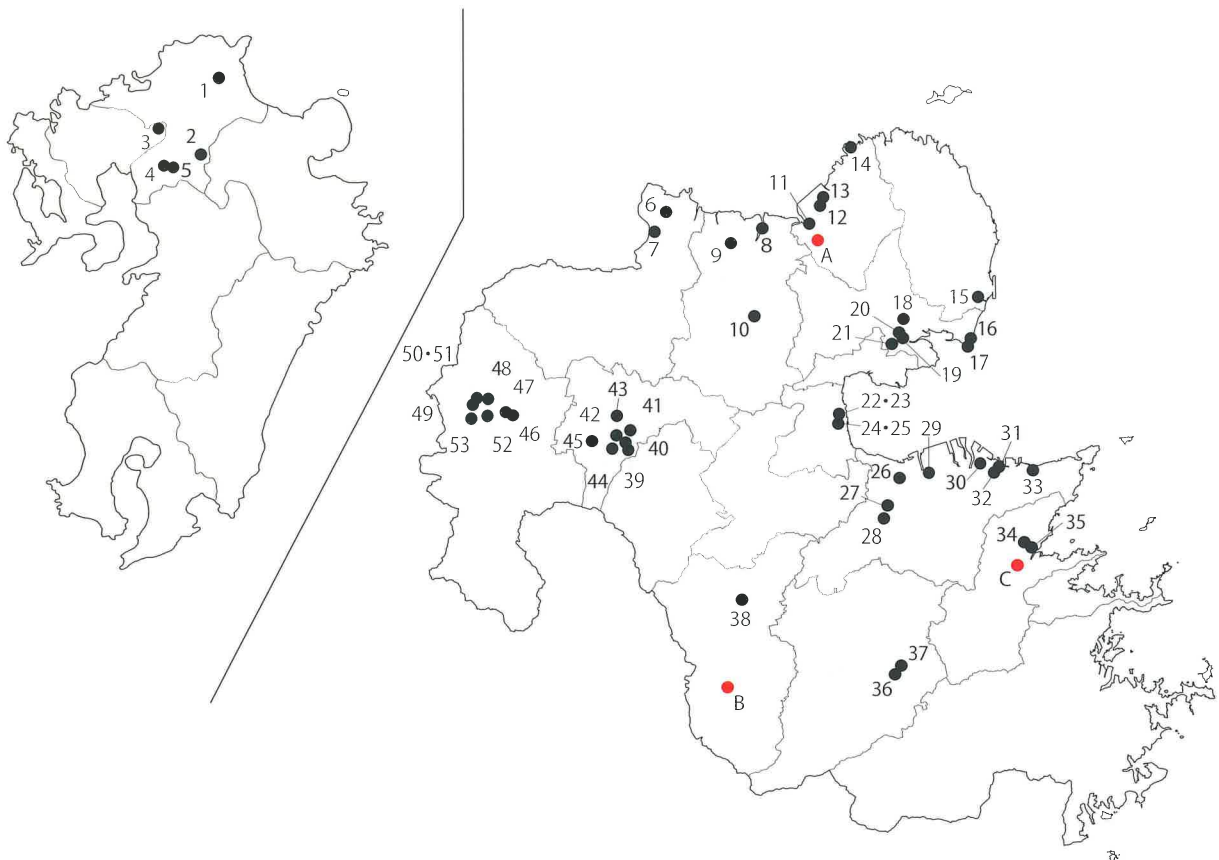
私たちの通う下南小学校には、古墳時代の石棺があります。これは、学校のすぐ横を通る高速道路の発掘調査で出たものを学校に移したという話を聞きました。長さは1mもなく、古墳時代にこの辺りを治めていた有力者の子どもの墓であったようです。



この石棺についての学習や地域に残っている前方後円墳（大分市の亀塚古墳、臼杵市の下山古墳）の見学などを通して、当時の人々は、どのような想いで大きな墓（古墳）を造り、その周辺にたくさんの「ハニワ」を並べたのかを考えてみようと思いました。それらをまとめ、展示発表をします。



展示古墳リスト



番号	古墳名	所在地	備考
1	猫迫1号墳	福岡県田川市伊田	円墳 27m
2	塚堂古墳	福岡県うきは市吉井町	前方後円墳 91m
3	岡寺古墳	佐賀県鳥栖市田代本町	前方後円墳 65m
4	立山山13号墳	福岡県八女市本	円墳 24m
5	童男山古墳群	福岡県八女市山内	円墳
6	龜山古墳	大分県中津市下池永	前方後円墳か 70m?
7	勘助野地1号墳	大分県中津市相原	方墳 15m
8	川部遺跡	大分県宇佐市川部	石棺
9	桐ヶ迫2号墳	大分県宇佐市山下	円墳 8m
10	大平3号石棺	大分県宇佐市下毛	石棺
11	志手金比羅山古墳	大分県豊後高田市玉津	円墳 15m
12	猫石丸山古墳	大分県豊後高田市草地	前方後円墳 66m
13	真玉大塚古墳	大分県豊後高田市西真玉	前方後円墳 100m
14	岬古墳	大分県豊後高田市香々地	円墳 不明
15	築山古墳	大分県国東市馬場	円墳? 20mか
16	小熊山古墳	大分県杵築市狩宿	前方後円墳 116m
17	御塔山古墳	大分県杵築市狩宿	円墳 76m
18	シラハゲ古墳	大分県杵築市満井	円墳 不明
19	重光古墳	大分県杵築市本庄	円墳か
20	七双子2号墳	大分県杵築市本庄	円墳 不明
21	的場2号墳	大分県杵築市八坂	円墳 11m
22	鬼ノ岩屋1号墳	大分県別府市北石垣	円墳 31m
23	鬼ノ岩屋2号墳	大分県別府市北石垣	円墳 38m
24	次郎塚古墳	大分県別府市北石垣	円墳 24m
25	鷹塚古墳	大分県別府市北石垣	方墳 25m
26	古宮古墳	大分県大分市三芳	方墳 12m
27	世利門古墳	大分県大分市上世利	円墳か
28	御陵古墳	大分県大分市木ノ上	前方後円墳 75m
29	牧出土	大分県大分市牧	不明
30	大在古墳	大分県大分市角子原	円墳か 35m

番号	古墳名	所在地	備考
31	辻1号墳	大分県大分市里	前方後円墳 50mか
32	龜塚古墳	大分県大分市里	前方後円墳 116m
33	小野古墳	大分県大分市馬場	方墳 11m
34	臼塚古墳	大分県臼杵市稲田	前方後円墳 87m
35	下山古墳	大分県臼杵市諏訪	前方後円墳 68m
36	秋葉鬼塚古墳	大分県豊後大野市三重町秋葉	前方後円墳 52m
37	重政古墳	大分県豊後大野市三重町内田	前方後円墳 53m
38	仏原千人塚1号墳	大分県竹田市久住町仏原	前方後方墳 26mか
39	おごもり周溝墓	大分県玖珠町大隈	方墳 18m
40	龜都起古墳	大分県玖珠町大隈	前方後円墳 48m
41	千人塚古墳	大分県玖珠町森	円墳 10m
42	四日市遺跡6号周溝墓	大分県玖珠町四日市	方墳か
43	志津里遺跡B地区第2次調査区1号石棺	大分県玖珠町太田	石棺
44	陣ヶ台遺跡	大分県玖珠町山田	方墳?
45	岩塚古墳	大分県玖珠町戸畑	不明 10m?
46	有田塚ヶ原1号墳	大分県日田市東有田	円墳 10m
47	尾漕2号墳	大分県日田市有田	円墳 16m
48	草場第二遺跡13号墳192号石棺	大分県日田市渡里	方墳 14×12m
49	小迫古墳	大分県日田市小迫	円墳 18m
50	朝日天神山1号墳	大分県日田市小迫	前方後円墳 34m
51	朝日天神山2号墳	大分県日田市小迫	前方後円墳 65m
52	姫塚古墳	大分県日田市高瀬	円墳 25m
53	ランドヤ1号墳	大分県日田市石井	円墳 25m
A	西田古墳	大分県豊後高田市佐野	方墳 15m
B	七ツ森古墳群	大分県竹田市戸上	前方後円墳・円墳
C	荒田遺跡	大分県臼杵市前田	石棺

企画展「九州・おおいたの古墳文化」展示資料一覧

番号	資料名	所蔵者
ロビー展示 おおいたの人物埴輪		
1	人物埴輪（築山古墳）	大分県立歴史博物館
2	人物埴輪（伝 牧出土）	個人蔵
3	人物埴輪（亀都起古墳）	玖珠町教育委員会
第1章 九州の古墳文化		
4	○馬形埴輪・馬具（猫迫1号墳）	田川市教育委員会
5	盾持人埴輪（塚堂古墳）	うきは市教育委員会
6	人物（武人・巫女・力士か）埴輪（岡寺古墳）	鳥栖市教育委員会
7	動物（鶏・馬・猪）埴輪（岡寺古墳）	鳥栖市教育委員会
8	人物埴輪（立山山13号墳）	八女市教育委員会
9	○子負いの女性石人（童男山古墳群）	八女市教育委員会
第2章 おおいたの古墳文化		
埴輪・土器		
10	円筒埴輪（龜山古墳）	中津市教育委員会
11	壺形埴輪（助助野地1号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
12	円筒埴輪（真玉大塚古墳）	豊後高田市教育委員会
13	へら記号入り円筒埴輪・馬形埴輪（猫石丸山古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
14	馬・猪？・双脚輪状文埴輪（築山古墳）	大分県立歴史博物館
15	壺形・鱗付半裁橋円筒埴輪（小熊山古墳）	杵築市教育委員会
16	罎・家・木桶形埴輪（御塔山古墳）	杵築市教育委員会
17	円筒・朝顔・家・盾形埴輪（御陵古墳）	別府大学附属博物館
18	船・スイジガイ・波状文を描いた埴輪・船形埴輪（亀塚古墳）	大分市教育委員会
19	蓋形埴輪（辻1号墳）	大分市教育委員会
20	円筒・船・鞍形埴輪（大在古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
21	短甲形埴輪（白塚古墳）	臼杵神社
22	円筒埴輪（下山古墳）	臼杵市教育委員会
23	壺形埴輪（秋葉鬼塚古墳）	豊後大野市教育委員会
24	壺形埴輪（重政古墳）	豊後大野市教育委員会
25	円筒埴輪（亀都起古墳）	玖珠町教育委員会
26	須恵器大型平底壺（朝日天神山2号墳）	日田市教育委員会
27	土師器 壺・甕・椀・長頸壺（仏原千人塚1号墳）	竹田市教育委員会
28	須恵器 坏蓋・高坏・坏蓋復元品（古宮古墳）	大分市教育委員会
石製品・石棺材		
29	石枕（伝 朝日天神山1号墳）	日田市教育委員会
30	箱式石棺材（小野古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
武器		
31	鉄鏃（的場2号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
32	鉄鏃（草場第二遺跡13号墳192号石棺）	大分県立埋蔵文化財センター
33	鉄鏃（有田塚ヶ原1号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
34	鉄鏃（岩塚古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
35	三輪玉（朝日天神山1号墳）	日田市教育委員会
36	獅噛環頭（シラハゲ古墳）	個人蔵（大分県立歴史博物館への貸出品）
37	複製刀（下山古墳）	臼杵市教育委員会
38	◎鉄剣・鹿角製装具（岬古墳）	大分県立歴史博物館
39	鉄剣・鹿角製装具（岩塚古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
40	素環頭大刀（尾漕2号墳）	日田市教育委員会
41	○蛇行剣（伝 姫塚古墳）	日田市教育委員会
42	鉄鉾（重光古墳）	大分県立先哲史料館

番号	資料名	所蔵者
武器		
43	◎短甲（岬古墳）	大分県立歴史博物館
馬具		
44	杏葉（的場2号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
45	鏡板複製品（次郎塚古墳）	大分県立歴史博物館
46	杏葉（次郎塚古墳）	別府大学附属博物館
47	壺鏡（鷹塚古墳）	別府大学附属博物館
48	馬鐸（おごもり遺跡1区方形周溝墓）	玖珠町教育委員会
49	鏡板・杏葉・辻金具（伝 朝日天神山1号墳）	別府大学附属博物館
50	◎轡（ガランドヤ1号墳）	日田市教育委員会
農工具とその他の鉄器		
51	鎌・鋤先・刀子（助助野地1号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
52	◎鋤鋤先・鎌（岬古墳）	大分県立歴史博物館
53	鉄鋌・複製鉄鋌（下山古墳）	臼杵市教育委員会
54	不明鉄器（志手金比羅山古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
銅鏡		
55	三角縁神獸鏡片（大平3号石棺）	宇佐市教育委員会
56	方格T字鏡（重光古墳）	大分県立先哲史料館
57	○位至三公鏡・獸帯鏡（白塚古墳）	臼杵神社
58	振文鏡（四日市遺跡6号周溝墓）	大分県立埋蔵文化財センター
59	珠文鏡（志津里遺跡B地区第2次調査区1号石棺）	大分県立埋蔵文化財センター
60	珠文鏡（陣ヶ台遺跡）	玖珠町教育委員会
61	珠文鏡（小迫古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
62	旋回式獸像鏡（伝 朝日天神山1号墳）	別府大学附属博物館
装身具		
63	勾玉・管玉・算盤玉・丸玉・小玉（助助野地1号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
64	銀製環・小玉（桐ヶ迫2号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
65	紫水晶製勾玉 他（川部遺跡）	宇佐市教育委員会
66	勾玉・管玉・小玉（大平3号石棺）	宇佐市教育委員会
67	斑点文トンボ玉・金環・銀環・勾玉（志手金比羅山古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
68	勾玉・切子玉・管玉・小玉（シラハゲ古墳）	個人蔵（大分県立歴史博物館への貸出品）
69	勾玉・管玉・囊玉・ガラス玉（御陵古墳）	大分市教育委員会
70	勾玉（龜塚古墳）	大分市教育委員会
71	勾玉・管玉（白塚古墳）	臼杵神社
72	勾玉・管玉（千人塚古墳）	玖珠町教育委員会
73	勾玉・管玉・七連玉（志津里遺跡B地区第2次調査区1号石棺）	大分県立埋蔵文化財センター
74	勾玉・管玉・囊玉・小玉（草場第二遺跡13号墳192号石棺）	大分県立埋蔵文化財センター
75	勾玉・管玉（小迫古墳）	大分県立埋蔵文化財センター
76	豎櫛（助助野地1号墳）	大分県立埋蔵文化財センター
77	豎櫛（千人塚古墳）	玖珠町教育委員会
78	ゴホウラ製貝輪・イモガイ製貝輪（世利門古墳）	別府大学附属博物館
79	ゴホウラ製貝輪・イモガイ製貝輪（白塚古墳）	臼杵神社
その他		
80	線刻入り紡錘車（七双子2号墳）	杵築市教育委員会

◎県指定有形文化財 ○市指定有形文化財

- 会期／令和5年10月31日～12月17日
- 主催／大分県立埋蔵文化財センター
〒870-0152 大分県大分市牧緑町1-61 TEL：097-552-0077 FAX：097-552-0700 <https://www.pref.oita.jp/site/maizobunka/>
- 後援／大分合同新聞社・NHK大分放送局・OBS大分放送・TOSテレビ大分・OAB大分朝日放送・エフエム大分・J：COM大分ケーブルテレビ
- 協力／うきは市教育委員会・宇佐市教育委員会・臼杵市教育委員会・臼杵神社・大分県立先哲史料館・大分県立歴史博物館・大分市教育委員会・杵築市教育委員会・玖珠町教育委員会・田川市教育委員会・竹田市教育委員会・鳥栖市教育委員会・中津市教育委員会・日田市教育委員会・豊後大野市教育委員会・豊後高田市教育委員会・別府市教育委員会・別府大学附属博物館・八女市教育委員会（五十音順）
- 子ども学芸員展示発表／豊後高田市立河内小学校・竹田市立菅生小学校・臼杵市立下南小学校
- 発行／大分県立埋蔵文化財センター
- 発行日／令和5年10月31日
- 印刷／小野高速印刷株式会社